



CONTENTS

- ・環境内部監査員を体験しませんか？
- ・化学物質を安全に取り扱いましょう
- ・安全な研究環境を構築するために

Vol.10
2017.7



環境内部監査員を体験しませんか？

環境内部監査員って？

富山大学の環境配慮活動では、PDCA サイクルを活用した「環境マネジメントシステム」によって運営しており、環境内部監査員は、各部署が設定した目標に対する進捗や成果を評価する役割（Check）を担います。

環境マネジメントシステムって？

環境マネジメントシステムにはいろいろな種類がありますが、富山大学では、国際規格であるISO14001に基づく「環境マネジメントシステム」を運用しています。ISO14001は、日本の多くの組織（企業、団体、自治体、学校等）が認証を取得しており、その件数は世界有数となっています。

環境内部監査員の経験者の方も大歓迎！

学生のみなさんへ

就活は、環境内部監査員の体験を活かし、富山大学の環境マネジメントシステムとは「どのような取り組みであり、自分はどのような活動をし、どのように感じたか」を伝え、あなたの環境配慮に対する意識の高さをアピールできます。

学生のみなさんも、今年度はご希望があれば監査リーダーとして監査することもできます！（その場合、具体的な役割や進め方等は、個別に相談に応じます。）

対象
富山大学の
学生
教職員

環境内部監査員 養成講習会

※環境内部監査員となるには、監査員養成講習会の受講が必要です。

【日時】平成29年9月28日（木）～29日（金）
両日とも10:00～16:00

※2日間連続受講が可能な方に限ります。

【場所】富山大学五福キャンパス（予定 災害対策プラザ）

【講師】三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
チーフコンサルタント 佐野真一郎氏

【対象】富山大学の学生・教職員

【費用】無料

【締切日】9月7日（木）

【お申込み方法】

メールまたはF a xにてご応募ください。

- ・件名 「環境内部監査員」
- ・本文
- ①名前（漢字、よみがな）
- ②所属（学部、学年）
- ③携帯電話番号
- ④その他（質問など）



お申込みは
こちらから



環境マネジメントシステムは
PDCA サイクルによって
運用されています。

継続的改善
(スパイラルアップ)



見直し Action

- 環境マネジメント部会（年2回）
- 9月 年度計画に対する進捗確認
環境報告書の審議
- 3月 活動の結果・成果の確認

確認 Check

- 環境内部監査
- 1月中旬～2月下旬
- ・環境内部監査員（学生、職員）が
年度計画実施状況の確認
（質疑応答、書類確認、現場確認）

計画 Plan

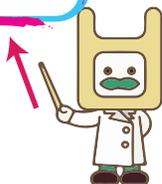
- 環境配慮活動の年度計画
- ・本学の環境配慮活動年度計画に
基づき、各部署にて計画を作成

実行 Do

- 計画に基づく実行
- ・年度計画の周知（4月初旬）
- ・環境安全推進員（職員、教員）が
各部署の記録の作成と管理（年間）



環境内部監査の様子



環境内部監査員の仕事はコレ！
環境マネジメントシステムのCheck（確認）だよ！



化学物質を安全に取り扱しましょう

現在、日本で使用されている化学物質は 66,450 種類^{*1} あります。これら化学物質の中には、皮膚等の付着や吸入、経口によってすぐに症状が出る毒物及び劇物（427 種類）や、20 年～ 30 年後に健康障害をひきおこす恐れのある特定化学物質（発がん性、生殖毒性など）があります。化学物質を適正かつ安全に使用するため、取り扱う前に、**安全データシート（SDS: Safety Data Sheet）** を必ず準備し、内容を**確認**しておきましょう。

※1：労働安全衛生法（以下、安衛法）名称公表化学物質情報 平成 29 年 3 月 27 日公示分



化学物質リスクアセスメントを行いましょう

・化学物質リスクアセスメントとは、研究室や講座等で扱う化学物質の危険性や有害性について作業を行う前にチェックしてリスクの低減除去を行うための手法です。

・リスクアセスメントを行うには、

「化学物質のリスクチェックリスト」の入力画面

「化学物質のリスクチェックリスト」
(環境安全推進センター HP にて掲載)
を使って行うことができますので、必ず実施しましょう。

・研究室や講座等の構成員全員がリスクアセスメントを実施しましょう。そうすることによって、リスクに対する認識を共有し、安全対策を確認し合い、また守るべきルールの理由を明確化することができます。また、「危険」回避に対する意識が高まります。

参考：厚労省 職場のあんぜんサイト
「新規化学物質関連手続きの方法」

チェック項目	入力方法	入力値	単位
1 通番	QRコードを携帯端末「読書」から読み取り、読書を入力してください	300	
2 化学物質名	上記1を入力すると自動表示されます	トリス(2,4,6-ジメチルフェニル)アゾニウムヘキサフルオロリンヘキサヒドリン	
3 1日あたりの化学物質の使用量	1日のワークから選択してください	300g以上500g未満	
4 1日あたり何時間、化学物質を使用するか	任意の数値を入力してください	3	(時間/日)
5 作業の種類	(固/液)または選択してください	3	(回/週)
6 作業場の換気状況	1日のワークから選択してください	密閉設備	
7 保護具の着用	専用の保護マスク 保護眼鏡 専用の保護手袋	専用なし	

リスクレベルと
対応措置を把握しよう！



安全な研究環境を構築するために

環境安全推進センター
専任教員 宮武 滝太

昨今、本学では、排水や廃棄物に関する事故が頻繁に起こっています。これは本学全体で安全への意識が低下していることが原因だと思います。安全とは、単に事故を起こさずに研究を行うというだけではありません。有害な物質への暴露を低減したり、環境に負荷をかけず、適切に廃棄物の処理を行うことも安全の一環です。大学は自由な雰囲気の下で研究を行い、学生が学ぶ場であるというイメージがありますが、それと同時に大学は社会的責任を果たすことが求められており、環境や安全への取り組みはその主要な位置を占めています。

安全に関する問題はそれぞれ独立していますが、その背景には組織や個人の安全への考え方（安全文化）の問題があります。事故を起こさないためには、教員が率先して安全を最優先に考えて行動し、単に個々の失敗を責めるのではなく、そこから学んで経験を共有することが重要です。このためには研究室内で、教員と学生や学生同士で積極的なコミュニケーションをとることが重要です。これからも安全に関する法規制が更に強化されていきますが、それを受け身に捉えるのではなく、より安全な研究環境を作っていくよい機会として積極的に対応していただきたいと思います。



富山大学 環境安全推進センター HP <http://www.erc.u-toyama.ac.jp> (環境報告書 2016 掲載)
ヒヤリハットに関する事例があればご連絡ください。

発行：富山大学 環境安全推進センター

〒930-8555 富山市五福 3190
TEL. 076-445-6124 FAX. 076-445-6074
Email: ensahe@adm.u-toyama.ac.jp